

メディア登場のご紹介

不要なぬいぐるみを障害者就労支援施設でクリーニングして、海外の子どもたちに贈るクラブポールスター事業が 2月26日付、朝日新聞に掲載されました！

朝日新聞

2015年(平成27年)2月26日

木曜日

享月

日

業庁

関西

大切にしてきたからこそ捨てられないぬいぐるみを、洗ってきれいにして途上国の子どもに贈る活動を、関西のクリーニング事業者らで作る一般社団法人MAST支援会(大阪市淀川区)が始めた。ぬいぐるみの提供者に洗浄や輸送にかかる費用も負担してもらい、障害者の作業所でクリーニングをする仕組みで、障害者にとっては貴重な就労の場になっている。

きれいにして包装、障害者が作業



途上国の孤児院の子らへプレゼント



川いずれも大阪市淀川区加島1丁目

ぬいぐるみ だれかも笑顔に

支援会は昨年4月に社会貢献活動を目的に発足した。ぬいぐるみの寄贈活動は、顧問を務める企業コンサルタント会社社長の石尾雅子さん(51)＝豊中市＝が発案。3人の子が幼い頃に遊んだ人形を捨てられずにいた経験から、ぬいぐるみが重宝される途上国で新たにかわいがってもらおうと企画した。

活動を障害者支援にもつなげようと、会の理事らと交流のあった大阪市淀川区の障害者就労

豊中のコンサル社長発案

支援施設加島友愛会Linkにぬいぐるみを洗う作業を委託。クリーニング業者から指導を受けた通所者3、4人で手洗いをし、包装して海外の孤児院や障害児童教育施設などに送ることにした。

ぬいぐるみの提供には、1体6480円か、パック詰め放題で1万800円を選べる。このうち800円がクリーニングをした障害者に支払われ、ほかに現地への輸送費やスタッフの渡航費、送り

先のリサーチなどに充てられる。

1月下旬、Linkではダウン症の男性(27)が、ぬいぐるみの汚れをタオルで拭く作業をしていた。ほこりで黒ずんだ部分に洗剤をかけて念入りに拭き取り、全体を見回した後に丁寧にブラッシングをする。Linkの玉城由美子支援課長(32)は「価値のあることをしているという自信からか、作業者の表情が明るい」と目を細める。

支援会は昨年11月、初めて約200体をタイ・バンコクの障害児施設などに届けた。3月にも再び贈る予定で、現在提供者を募っている。現地にぬいぐるみを持っていった担当の小野悦子さん(39)は「思っていた以上に喜ばれた。処分ではなく、ぬいぐるみの生きる場所がある。ぜひ協力を」と呼びかける。

詳細はホームページ(<http://e-cps.org/>)で。

(藤田絢子)